

「近代によみがえる古代神話」

(日本美術編)

2020年度の館長講座のテーマは「神話」です。これを選んだのは、2019年度のテーマだった「アール・デコ」に、ギリシャ神話の神々が出没していたからです。アール・デコといえば、機械時代の芸術のはずなのに、なぜそこに古代の神々、とくに女神が居残っていたのか不思議でした。調べてみると、日本美術でも同じような現象が起きていました。

そこで古代神話の神々が、近代以降の芸術家の靈感源となりえた理由を知りたくなりました。女神たちの復活は、芸術家個人の出来事だったのでしょうか。それとも近代社会の主人公である市民階級（ブルジョワジーたち）や、その後の私たちにとっても必要なことだったのでしょうか。これらを考えてみようと思います。まずは日本美術の方から。

第1回：2020年10月21日（水） 14:30～16:00

想像の国民文化

本田錦吉郎、山本芳翠、青木繁の洋画

古事記と日本書紀と民間信仰に登場する、神々と英雄たち

第2回：2020年12月2日（水） 14:30～16:00

民間信仰 1

月岡芳年と国芳の錦絵

民間信仰に登場する、神々と英雄たちの冒険譚

第3回：2021年3月17日（水） 14:00～15:30

民間信仰 2

ロンドン在住のナセル・ハリリが蒐集した明治の輸出工芸品

1880-90年代のそれらのうち、とくに金工品と漆工品に登場する、中国伝来の儒教、道教、仏教の神々

第3回 民間信仰 2

概要

I 紀元前の中国に興った孔子（前 551～479）を始祖とする信仰の体系である儒教。哲学の体系という面では、「儒家思想」とも呼ばれる。儒教は、東周・春秋時代に魯の孔子らによって形成された。前漢の時代に保護され、後漢に国教となった。唐代には仏教が信仰されたため影を潜めたが、宋代には朱子学が興ってより哲学的な「修身、齐家、治国、平天下」の教えへと至った。儒教の根本的な徳目である「仁、義、礼、智、信」から発して、祖先を敬う。

II 道教は、戦後時代（紀元前5世紀～前221年）後期には、その教えである「道、徳、

柔、無為」が流布していたと考えられる。道教の始祖といわれる老子は、その実在が疑われている。道教の源流のひとつに「神仙思想」がある。東海にある蓬莱山や、西の果てにある崑崙山に仙人や羽人が棲み、飛翔や不老不死の能力をもつという思想だ。

ここから、八仙が象徴化され、「李鉄拐、漢鍾離、呂洞賓、藍采和、韓湘子、何仙姑、張果老、曹国舅」が選ばれた。日本で人気のある蝦蟇仙人や西王母はそこには入っていない。このほか超越した人物として、英雄たちも仙人の列に加えられた。関羽はその代表である。

III 中国での仏教（北伝仏教・大乘仏教）は、紀元後1世紀の漢の時代に、ネパールから伝わったといわれる。仏教は道教と習合され、禪宗を形成した。唐代に禪宗は中国最大の教派に成長した。儒教、道教、仏教と合わせて、三教と呼ばれた。

IV 日本にも、三教は伝わってきた。1880～90年代の輸出工芸品に登場する主人公を見ていくと、道教の老子、道教の仙人「蟠、鉄拐、張果老、西王母、琴高、籥史ら」がダントツに多く、つぎに仏教の神「達磨、七福神（恵比寿、大黒天、福祿寿、毘沙門天、布袋、寿老人、弁財天）、鍾馗、閻魔、鬼ら」がつづき、儒教の孔子や、儒教と道教が習合した「関羽、玄宗皇帝、楊貴妃ら」はわずかである。

日本ではこれらの主人公に、道教系の仙人・英雄として「浦島太郎、牛若丸、烏天狗」や、神道の神として「天照大神、素戔鳴尊、風神雷神ら」が加えられた。

V では、なぜ、1880～90年代の輸出工芸品に、中国伝来の三教の主人公が使われだしたのか？